

大阪府教育センター研修を活用した校内授業改善のための事例集

大阪府教育センター等の研修を受講後には、次のような方法も参考にして、所属校の先生方に研修内容を発信してください。

1
協働して
教材研究

2
授業解説参観
の実施

3
研修動画・
授業動画の
共同視聴

4
教科内授業研
の実施

5
経験の少ない
教員を対象
とした研修の
実施

6
定期的な
自主勉強会
の実施

7
教科の壁を
越えた
学習指導案
検討会の実施

8
内容を
焦点化して
共有

9
実践の報告

10
校内研修の
実施

11
初任者研修
実践報告会の
実施

12
授業参観に
おける
視点の転換

13
外部人材を
生かした
研修の実施

14
小中
ステップアップ
研修会の実施

発信に向けた
時間を生み出す
工夫例
(文部科学省
作成資料への
リンク)

○ 校内研修の実施

研修内容の発信が、研修資料の回覧や、一方的な伝達講習になっていませんか。

校内の先生方が、実感をともなって理解できるように、演習や模擬授業等を取り入れ、工夫して伝えるようにしましょう。



教職員支援機構

「アクティブ・ラーニング
研修プログラムモデル」より

<https://www.nits.go.jp/jisedai/achievement/>

先生が、主体的・対話的で深く学ぶことができる「アクティブ・ラーニング研修プログラムモデル」を活用して、校内の先生方が授業づくりについて、自分ごととして考え、同僚と対話し、深く考えられるようにしている学校もあります。

戻る

○ 内容を焦点化して共有

写真は、子どもたちの成果物と判断基準（評価基準）を照らし合わせて、実際の評価を考える校内研修の様子です。

伝達する内容を焦点化することで、

演習やグループ協議など、校内の先生方が、研修内容について主体的に考える時間を十分に確保しています。



研修で受講した内容や資料を校内で共有する際、先生方に「これも伝えたい」、「あれも伝えなければ」という思いが強くなってしまい、うまく伝達することができなかったことはありませんか。

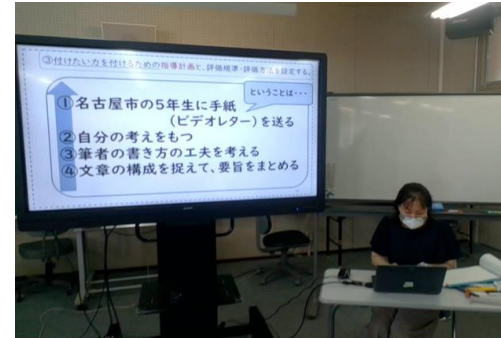
共有したい内容は、一遍に伝達するのではなく、内容を焦点化してスモールステップで伝達していくことも有効です。

戻る

○ 実践の報告

府教センター研修を受講した先生が、授業づくりのポイントについて校内研修で話をしている学校もあります。

実際に実践した単元をどのようにつくっていったかを共有することは、先生方の参考になるようです。



校内研修では、理論と実践を結び付けて考えられるようにすることが大切です。

また、授業づくりにおける「理想像」だけでなく、「悩みどころ」を共有することも大切です。

○ 研修動画・授業動画の共同視聴

研修で紹介された研修/授業動画を、校内の先生と一緒に視聴し、気づいたことを交流する時間を設定します。

- 大阪府教育センターwebページ (要教職員パスワード)
- 国立教育政策研究所webページ (サイト内で「映像」と検索)
- NITS (教職員支援機構webページ)
- 他の都道府県指定都市の研修/授業動画 等

動画を見た感想や疑問をそのままにしないで、一緒に視聴しているメンバーと交流します。

「そこが大切なポイントだ」、「そういう授業の作り方もあるんだ」など、新たな発見を通して、授業づくりの充実につなげている学校もあります。

○ 授業参観における視点の転換

府教センター研修で学んだ授業参観の方法、「指導者ではなく生徒の学びの姿を見取る」ことを実践している学校があります。

この学校では、授業を参観する際は、学習中の生徒の「振る舞い」や「つぶやき」などを丁寧に記録して、生徒の姿をもとにした事後協議会を実施しています。

その結果、「生徒がどう学んでいるのか」を参観者は重視しながら、今、求められる授業の在り方について協議しています。

協議会の後には、次のような感想が聞かれました。

「今まで生徒をいかに丁寧に見ていなかったか、ということに気づいた。」

「生徒主体の授業になっているか、常に考えていきたい。」

戻る

○ 教科内授業研の実施

府教センターの研修内容を踏まえた教科内授業研を、各教科で実施している学校もあります。学習指導案を作成し、職員朝礼などで実施についてアナウンスし、参加可能な先生が参加して、個別に授業の振り返りを共有します。

事後には、府教センターの研修資料とともに、実践した授業の概要や参加者からの振り返りを簡単にまとめて、職員全員で共有できるようにしています。

同じ教科を担当する先生が複数で府教センターの研修を受講している学校もあります。複数の先生が同じ研修を受講することで、授業づくりの話合いも、同じ方向性でスムーズに実施できています。

○ 教科の壁を越えた学習指導案検討会の実施

他教科の先生を巻き込むために、学習指導案検討会の開催方法を工夫している学校もあります。

この学校では、参加した先生が、生徒役に徹して模擬授業を行う形で、学習指導案検討会を実施しています。

参加した先生は、生徒の立場に立って、「本時の目標」や「具体的な子どもの姿」を考え、授業者と共有しながら、必要な支援のてだてを考えるなどします。

中学校においては、教科の専門性を逆に利用して、他教科の先生に生徒役になってもらうことで、課題の見られる生徒の姿を具体的に想像しやすくなります。これによって、必要な支援のてだてや、考えたくなる発問など、授業改善に繋げることができます。

○ 定期的な自主勉強会の実施

学校の全ての先生が参加する研修ではなく、自由参加の勉強会を開催します。その中で、授業づくりの悩みを交流したり、一緒に教材研究を行ったりしています。



参加者の必要に応じて、府教センターの研修受講者が、研修資料を提示しながら、授業づくりのポイントを丁寧に伝達していきます。

毎月第2、第4金曜日の放課後を、自主勉強会の日として計画しておき、できるだけ多くの先生が参加しやすいようにしている学校もあります。

内容に応じて、管理職の先生やベテランの先生に参加してもらい、授業づくりについて助言してもらっている学校もあります。

○ 外部人材を生かした研修の実施

外部機関（市町村教育委員会指導主事、学識経験者等）と連携して、希望者が参加するミニ研修会を開催している学校もあります。

研究テーマをもとに一人ひとりが取り組んでいることを交流します。また、取り組む中ででてきた課題についても共有し、改善点を考えます。ミニ研修会の後半には、外部から参加の市町村教育委員会指導主事や学識経験者と直接対話したり、指導助言をもらったりします。

小規模の研修とすることで、参加する先生どうしの議論を深めることにつながります。そこに外部機関を巻き込むことで、客観的なアドバイスを直接得ることができます。

外部機関と連携した計画的な運営がポイントとなります。

○ 経験の少ない教員を対象とした研修の実施

「育とう!若い先生!」

学校の若い先生方が協力して育っていく学びの時間を、月に1回程度、開催している学校もあります。

「授業づくりで大切にしていること」「ICTを活用した指導の工夫」など、次回の内容を事前に共有しておくことで、安心して参加できるようにしています。

経験年数の少ない先生を中心に、不安に思っていることや悩みを共有しています。そして、不安に思っていることや悩みをそのままにせず、参加者で解決策を出し合い、これからどうしていくかを考えられるようにしています。

戻る

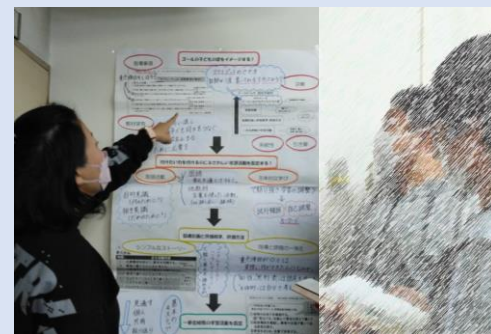
○ 協働して教材研究

府教センター研修を受講した先生が、
研修で学んだことを生かしながら、
経験年数の少ない先生の育成を
図っています。

特に、一緒に教材研究を行うことが
効果的であるようです。



放課後にまとまった時間をとることは
難しいことがあります。しかし、ちょっと
した時間で授業づくりについて「対話」する
ことが、先生の授業力の向上につながります。



戻る

○ 授業解説参観の実施

経験年数の少ない先生に対して、積極的に他の先生の授業を参観するよう促している学校もあります。

しかし、経験年数の少ない先生は、授業づくりのポイントがなかなかわからないこともあります。

そこで、先輩の先生が授業を解説しながら参観する「授業解説参観」を実施している学校もあります。



研修で学んだ、今求められる授業づくりのポイントを、実際の授業に当てはめることで、理解が深まります。

また、授業者の工夫についても何が大切なのかを解説してもらえることで、経験年数の少ない先生が自分の授業に生かすやすくなります。

○ 初任者研修実践報告会の実施

学期に1回、初任者研修で学んだことをもとに、報告会を実施します。

受講した初任者研修の中で、各自が「いいな!」と感じ、実際に授業でやってみたことを報告します。うまくいったこと、いかなかったことも含めて、初任者研修で学んで「ためしてみたこと」を報告します。

報告会の最後には、参加者が報告を聞いて、「これから自分もやってみたいこと」を決めます。

この小学校では、初任者以外の教職員は自由参加ですが、さまざまな立場の先生が参加しています。初任者の先生は初任者研修の資料とともに、児童の成果物や写真を持参して、取り組んだことをアウトプットし、さまざまな意見をもらうことで自身の実践を客観視することができています。

戻る

○ 小中ステップアップ研修会の実施

校区や小中一貫校の先生方が集まって、学期に2回程度、授業づくり研修会を実施します。テーマについては、全ての先生方にアンケートをとって、柔軟に設定します。

特に、教科担当者ごとに分かれて実施する教科部会では、それぞれの校種での指導事項や教材を確認することを通して、系統的な指導の充実について考えられるようにします。

具体的な教材や単元を紹介しながら交流することで、小学校で指導したことを、再度、中学校で指導するなどの重複がなくなります。

また、同じ内容でも校種によって扱い方が異なることを知ることができます。

○ 発信に向けた時間を生み出す工夫

全国の学校における

働き方 改革 事例集

令和5年3月改訂版



文部科学省

日課表の
見直し

「働き方改革事例集」
p.138

ローテーション
給食の実施

「働き方改革事例集」
p.58

行事の必要性の
検討・見直し

「働き方改革事例集」
p.65

文部科学省「働き方改革事例集」
(令和5年3月改訂版)より

https://www.mext.go.jp/content/20230320-mxt_syoto01-000028353_1.pdf

戻る